

パーキンソン病患者の転倒に関連する要因の探索的検討
—理学療法科のパーキンソン病データベースを用いた研究—

1	研究対象者
	令和3年4月から令和4年3月までの1年間に当センター神経難病センターに入院したパーキンソン病患者
2	研究責任者
	埼玉県総合リハビリテーションセンター 理学療法科 主任 小川 秀幸
3	研究の目的
	<p>転倒は外傷や骨折など直接的な運動の阻害因子となるだけでなく、転倒への精神的な恐怖感など間接的にも活動性を低下、抑制させる原因となる。パーキンソン病（以下、PD）の転倒原因は、無動や固縮、姿勢反射障害などの運動症状だけでなく、認知機能低下や血圧低下などの非運動症状も関連していることが報告されている。そのため、PDにおける転倒の原因を運動症状や非運動症状も合わせて多要因から検討することが重要である。</p> <p>当センターでは、PDなどの神経難病患者を対象とした専門病棟を有している。理学療法科では、入院患者の身体機能や動作能力などをデータベースに記録している。PD患者の転倒に関連する要因を多角的に検討するため、理学療法科のデータベースを活用した研究実施を計画しています。</p> <p>PDの転倒に関連することが報告されている因子として、転倒恐怖感の有無、PDの重症度、バランス能力、認知機能などが挙げられる。しかし、先行研究ではそれらの因子が単独で転倒に関連するのかを検証した報告がほとんどである。そのため、これらの因子を複数含めた中で、どの要因が転倒に強く関連しているのかは明らかとなっていない。</p> <p>そこで、PDにおける転倒の原因を運動症状や非運動症状も含めて多要因から検証し、転倒リスクの高い患者に対して予防策を講じる一助としたいと考える。</p>
4	利用する診療情報
	<p>パーキンソン病患者における理学療法科のデータベースを用いて以下の情報を後方視的に収集する。</p> <p>年齢、性別、身長、体重、転倒の有無、転倒恐怖感の有無、パーキンソン病の重症度（MDS-UPDRS partⅢ）、バランス能力（Brief-BESTest）、認知機能（Moca-J）</p>
5	研究期間
	令和5年5月23日から令和6年3月31日
6	個人情報の取り扱い
	個人情報の取り扱いには十分に注意し、得られた情報は匿名化または暗号化を行い、外部ネットワークから遮断されたパソコンにパスワードを設定して管理・保管する。

7 お問い合わせ先

本研究にご自身の情報を使用されることにご了解いただけない場合や途中で研究対象から除外の希望がある場合は、お申し出ください。ご協力いただけない場合でも不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

埼玉県総合リハビリテーションセンター

理学療法科 主任 小川 秀幸

電話：048-781-2222（代表）